

研究所だよい

教育相談講座だよい

Q—Uの理論と活用(その二)

■実施にあたって

- 1 実施を避けた方がよい時期
- ① 学期はじめ
- ② 学期末、学年末
- ③ 運動会(体育祭)、音楽祭など、行事が立て込んでいる時期
- ④ 小グループ同士が対立しているような時期
- 2 実施方法：説明をしすぎないこと
- 3 結果に必ず対応すること
- 4 秘密は守ること
- 5 日常観察をしっかりと行うこと

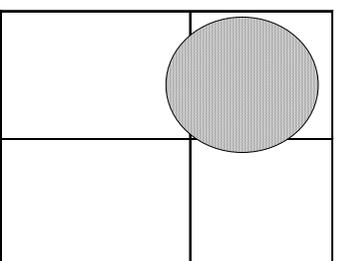
■アセスメント

- ① 公的なリーダーの児童生徒の位置を確認する。
- ② 学級内で影響力の大きい児童生徒の位置を確認する。
- ③ 「あれ?」：日々の観察と違う/疑問に感じる児童生徒は?
- ④ グループを線で囲む。
- ⑤ 4群にプロットされた児童生徒に共通する特徴は?
- ⑥ 「やる気：アンケート」で、意欲得点が高い/低い、三角形・折れ線のバランスをみる。
- ⑦ 自由記述の内容を確認する。(特にプロット上で気になる子は、どんなこと書いているか校内研等で共有すること大切)
- ⑧ 1次的対応、2次的対応、3次的対応、各々対応を考える。

■ルールとリレーションの確立状態から見る学級満足度尺度の分布
うに分析されず。

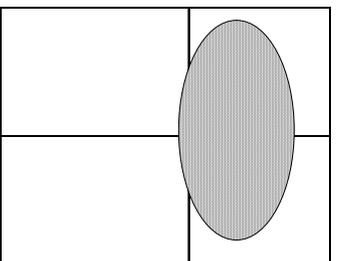
(発行) 土佐清水市教育研究所
二〇〇八年八月十八日
第二七二号
問い合わせ(八二) 三〇一六

① 右上に集まった分布
ヘルールの確立がやや低い学級集団



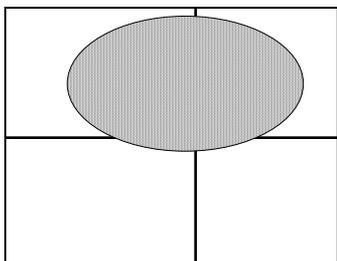
学級内にルールが内在化しており、その中で、子どもたち全体の承認得点が高くなっています。主体的に生き生きと活動できている状態で、教師がいけないときでも、子どもたちだけである程度活動することがあります。また親和的な人間関係があるので、子どもたちのかかわり合い、発言も積極的で、活気があり、笑いが多い学級です。

② 縦に伸びた分布(管理型)
ヘルールの確立がやや低い学級集団



ルールは定着しているものの、子どもたちの間で承認得点の差が大きくなっています。一見静かですが、落ち着いた学級に見えますが、子どもたちの意欲に大きな差が見られ、人間関係も希薄です。子どもたちは教師の評価をする傾向があり、子ども同士の関係にも距離があります。シラツとした活気のない状態で、学級活動も低調気味です。

③ 横に伸びた分布(なれあい型)
ヘルールの確立がやや低い学級集団



承認得点は高いのですが、被侵害得点の差が子どもたちの間で大きくなっております。学級内のルールの定着が低く明確にならなっており、子どもたちも元気で自由に活動しています。一見、子どもたちが元気で自由に活動している雰囲気、学級に下していますが、授業では私語が見られ

